

水稲除草剤の上手な使い方 ～田植え前のご確認を～

【水稲初期除草剤の使用時期に注意！】

移植前・播種前の使用は「7日前まで」です

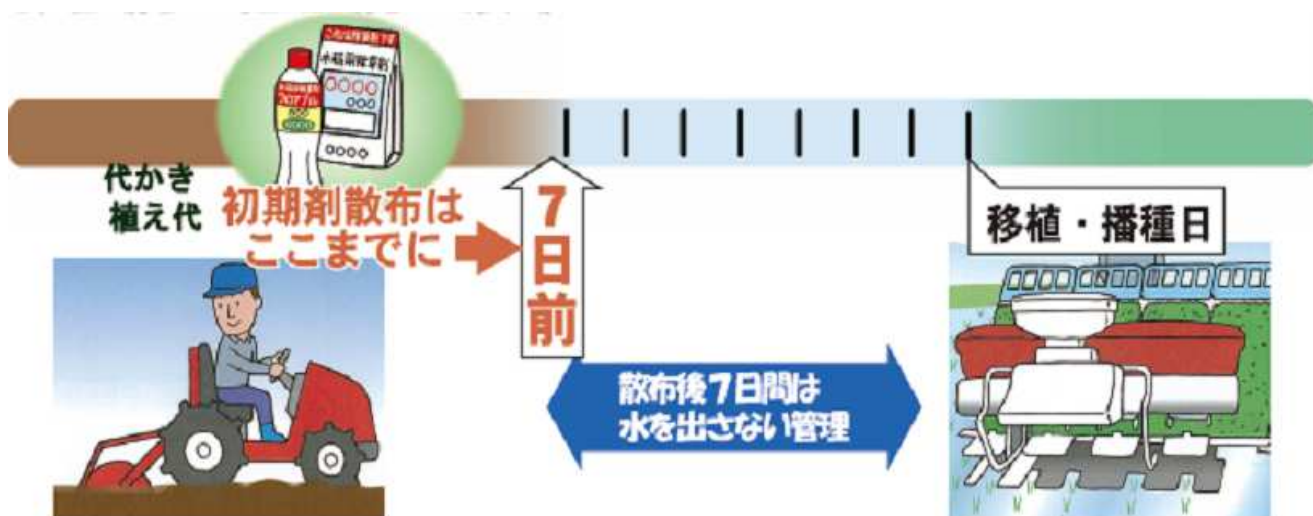
移植栽培の使用時期

植え代後～移植7日前まで
植え代時（移植7日前まで）

直播栽培の使用時期

直播の代かき後～播種7日前まで
直播の代かき時（播種7日前まで）

※ 詳しい農薬の使い方、登録内容については製品チラシのご確認や、お近くのJAまでお問い合わせください。



水溶除草剤は田んぼの水によってひろがり、田面に「処理層」を作ることで効果を発揮します。上手に除草剤を効かせるポイントをご紹介します。

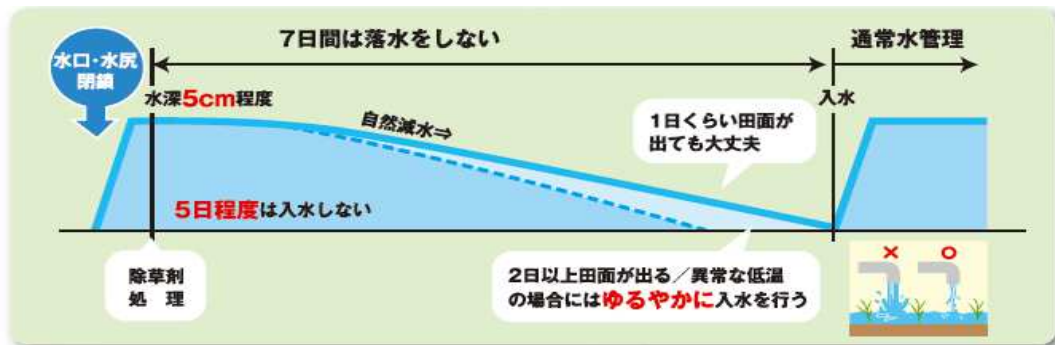
～ 「水稻除草剤」散布のポイント ～

1、代かき、あぜ塗は丁寧に！

- 田面の凹凸がなくなり均平になるよう耕起・代かきは丁寧におこなう。
- 小動物穴や崩れがないよう丁寧に畦塗りし、漏水防止に努める。
- 漏水しやすい場合は、あぜ波板やシートなどで補強する。

2、水管理をしっかりと！

- 水口、水尻をしっかりと止め、**5 cm**程度の水深を確保する。
- 除草剤散布後の**7日間**は落水やかけ流しをせず、入水もできるだけ控える。
- 入水が必要な場合は、ゆるやかに入水する。



3、適期に散布！

- 雑草葉齢に合わせて処理適期に散布する。
- 表層はく離やアオミドロが発生する前に散布する。(特にジャンボ剤、豆つぶ剤、フロアブル剤) ※除草剤の登録範囲内で！

4、雑草が多い圃場では体系処理がおすすめ！

- 毎年雑草が問題となる圃場や、代かきから田植えまでの期間が長くなる場合は **初期剤 + 一発処理剤** や **一発処理剤 + 後期剤** の体系処理をおこなう。

5、ジャンボ剤、豆つぶ剤、フロアブル剤のポイント！

- 薬がうまく拡がるよう、水はたっぷり多め（水深**5～7 cm**くらい）に。
- 表層はく離、アオミドロが発生した場合は、雨上がりなど藻を落ち着かせてから散布する。
- 水田の水がかたよるほどの強風が予想される場合は、散布を避ける。

(肥料農薬部 肥料農薬推進課)